

## 6. 神子畑<sup>みこばたちゅうてつきょう</sup>鑄鉄橋

### ■ 指定日

昭和52年6月27日

### ■ 種別

国指定重要文化財 建造物

### ■ 年代

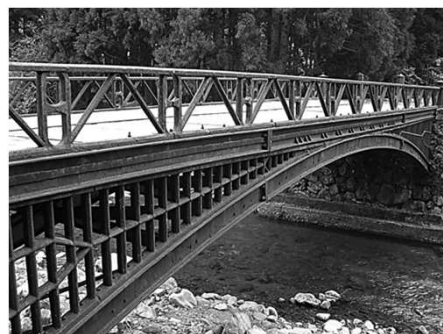
明治時代

### ■ 所在地

朝来市佐囊

### ■ 所有者

エコマネジメント株式会社



### ■ 内容

明治11年(1878)神子畑鉱山が再発見され、明治14年(1881)の本格開坑以後、その鉱石運搬のために道路が必要となった。そこで神子畑-生野間をむすぶ総延長16.2Km、幅員3.6mの馬車道(鉱山道路)が建設され、5つの橋が架けられた。

この工事は明治16年(1883)から足かけ2年、総工事費4万円をかけた大工事であった。この馬車道が神子畑川を横切るときに架けられたのが、神子畑鑄鉄橋である。また、工事すべての設計・施工はともに日本人となっているが、実際には生野鉱山開発にあたったフランス人技師団の技術指導の結果によるところが大きい。

神子畑鑄鉄橋は、日本に現存する鉄橋としては3番目に古く、全鑄鉄製の橋としては日本最古である。